

病院事業庁の基本方針に対する評価

（令和 7 年度）

病院事業庁の基本方針に対する評価

【基本方針】高度で安全な医療を提供する　　＜各指標の達成度＞								
指標			令和4年度実績	年次目標(上段)・年次実績(下段)				
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
入院 患者満足度(%)	総合病院	旧総合	91.7%	91.3%	92.0%	92.0%	92.0%	92.0%
				91.3% [A]	92.7% [A]	91.5% [B]		
		旧小児	79.3%	97.0%	97.0%	97.0%	92.0%	92.0%
				97.0% [A]	94.4% [B]	89.5% [B]		
	精神医療センター 第1病棟・第2病棟		72.3%	70.0%	70.5%	71.0%	71.0%	71.0%
				71.8% [A]	74.8% [A]	72.2% [A]		
	精神医療センター 第3病棟		73.2%	72.8%	73.5%	74.0%	74.0%	74.0%
				72.8% [A]	70.8% [B]	71.0% [B]		
外来 患者満足度(%)	総合病院	旧総合	79.3%	80.9%	82.0%	82.0%	82.0%	82.0%
				80.9% [A]	83.5% [A]	80.4% [B]		
		旧小児	87.8%	90.4%	91.0%	91.0%	82.0%	82.0%
				90.4% [A]	89.4% [B]	76.2% [B]		
	精神医療センター		80.4%	77.5%	78.0%	78.5%	80.0%	78.5%
				80.4% [A]	79.7% [A]	79.8% [A]		

病院事業庁の基本方針に対する評価

【基本方針】高度で安全な医療を提供する　＜関連する重点目標の達成度＞		
所属	重点目標	達成度
総合病院	診療連携の強化による更なる高度急性期・専門医療の提供	B
	患者や地域医療機関から信頼される地域に根差した病院	A
精神医療 センター	保健・福祉を統合した科学的な医療と看護	B
	文化に根差した患者本位の社会復帰	B
	信頼と協働による地域連携	A
経営管理課	病院説明会や実習受入、学校訪問等による医療人材の確保	B

【基本方針】高度で安全な医療を提供する

令和7年度の 取組および 評価と課題、 今後の対応	◎令和7年度の取組および評価
	(1)各県立病院の取組状況 ・総合病院では、動態追尾照射が可能な放射線治療装置(OXRAY)による治療を開始したほか、ルタテラ治療等のRI内用療法を開始する等、患者への負担が少ない最先端の放射線治療を開始した。また、TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)による治療の実施等、高度な医療を提供した。 ・精神医療センターでは、依存症プログラムの見直しや精神科救急に対応するための病床確保、大人の発達障害の受診体制の見直しによる受診待ち期間の短縮等に努めた。また、令和8年2月には病棟再編を行い、思春期の入院患者を急性期等の患者と分離することや、病棟主治医制の導入、診療局長が救急を含む外来対応に専念できるようにする等の改善を行った。 ・総合病院と精神医療センターとの間で医師のホットラインを構築し、総合病院に救急搬送される患者で精神疾患等のある患者を精神医療センターに転院することや、精神医療センターの患者で身体症状出現時に総合病院の医師が診察を行う等、両病院間の協力体制を強化した。 (2)全体の評価 ・総合病院ではがん診療連携拠点病院として最新のがんの放射線治療を提供しており、精神医療センターにおいても依存症専門医療機関としてプログラムの見直しを行う等、県立病院として先進的・専門的な治療の提供に努めてきたこと等を踏まえて、令和7年度の取組に対する評価をA評価とする。
	◎課題、今後の対応
	・総合病院においては、前立腺がんに対するRI内用療法を国の研究機関と協力しながら実施体制を強化する。また、重症心身障害児や重篤な症状のある小児患者を居住医療圏外にも処置しながら救急搬送する小児ドクターカーを運用し、県内の小児の救急患者の対応を支援する。 ・精神医療センターにおいては、見直し後の依存症プログラムによる治療を開始するほか、児童・思春期精神科の専用病床の設置に向けた検討を行う。 ・患者満足度が令和6年度と比較して低下している病院が多く、待ち時間の縮小や医療の質や接遇の向上等を図ることができるよう努める。

基本方針		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高度で安全な医療を提供する	評価	A	A	A		

【基本方針】患者に寄り添う心と、仕事への誇りを持ち続ける　＜各指標の達成度＞						
指標	令和4年度実績	年次目標(上段)・年次実績(下段)				
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
職員満足度(患者に喜んでもらえていると感じている職員の割合)(%)	71.4%	72.0%	73.0%	74.0%	79.0%	79.0%
		75.2% [A]	77.8% [A]	78.7% [A]		
職員満足度(仕事に充実感や達成感、誇りを感 じている割合)(%)	74.5%	75.0%	76.0%	77.0%	81.0%	81.0%
		76.8% [A]	77.6% [A]	81.5% [A]		

【基本方針】患者に寄り添う心と、仕事への誇りを持ち続ける　＜関連する重点目標の達成度＞		
所属	重点目標	達成度
総合病院	診療連携の強化による更なる高度急性期・専門医療の提供	B
	患者や地域医療機関から信頼される地域に根差した病院	A
精神医療センター	保健・福祉を統合した科学的な医療と看護	B
経営管理課	職場環境の向上	B
	職員のスキルや意識の向上	C

【基本方針】患者に寄り添う心と、仕事への誇りを持ち続ける

令和7年度の 取組および 評価と課題、 今後の対応	◎令和7年度を取組および評価					
	(1)各県立病院の取組状況					
	・総合病院では、当直体制の見直しや救急患者や紹介患者の受入体制の見直し、MR検査の予約枠の増設等、断らない病院となるよう院内の人員体制の見直しを行った。					
	・総合病院のこども棟においては、県内のレスパイトの需要に対応し在宅医療を支援するため、空床型の医療型短期入所制度の実施に向けて体制の整備や説明会の開催等の準備を進め、令和8年4月から運用を開始した。					
	・精神医療センターでは、デイケアへの移行支援数が増加する等、入院患者ができるだけ早期に社会復帰するとともに、再び入院する患者を減らすように患者に対してアプローチしてきた。					
	(2)全体の評価					
	・職員意識調査の結果では、患者へ寄り添い貢献できている実感や、仕事に対する誇りを持つという2つの設問において、目標および昨年度の実績を上回る結果となった。各病院においても両設問の肯定的な意見の割合が昨年度と比較して向上しており各病院内において患者への貢献や仕事への誇りを持つこと等の機運が高まっていると考える。					
	・職員満足度が向上していること等目標を達成している指標も多く、各病院において患者に寄り添った治療が行うことができるよう体制の見直し等を積極的に行ったことから、令和7年度を取組に対する評価をA評価とする。					
	◎課題、今後の対応					
	・総合病院では、MR検査の予約枠を4月から増設する等、診療や検査の予約を円滑に受け入れられるように改善し、患者や地域の医療機関から選ばれる病院となるよう努める。					
	・総合病院は看護師の特定行為研修指定研修機関に指定され、令和8年度から研修を実施している。令和9年度からは他施設の研修生の受講を受け入れる予定である。					
	・精神医療センターでは、令和8年度から地域連携室を新設して地域の医療機関との連携を強化し、症状が落ち着いた患者を地域に戻して関係機関と協力しながら患者の地域での生活を支えていく。					
	・事務職員の研修体系を令和8年度中に整備し、令和9年度から研修を実施できるよう検討を進める。					

基本方針		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
患者に寄り添う心と、仕事への 誇りをもち続ける	評価	A	A	A		

【基本方針】持続可能な経営基盤を確立する　＜各指標の達成度＞						
指標	令和4年度実績	年次目標(上段)・年次実績(下段)				
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
経常収支比率(%)	106.8%	94.2%	97.2%	98.0%	97.6%	100.9%
		97.0% [A]	93.2% [B]	91.9% [B]		
修正医業収支比率(%)	76.4%	76.3%	83.9%	84.4%	79.9%	85.6%
		78.5% [A]	78.4% [B]	76.2% [B]		
自己資本構成比率(%)	17.3%	前年度比増	前年度比増	前年度比増	前年度比増	前年度比増
		15.2% [B]	10.3% [C]	5.0% [C]		

【基本方針】持続可能な経営基盤を確立する　＜関連する重点目標の達成度＞		
所属	重点目標	達成度
総合病院	健全な病院経営の持続可能な基盤体制の確立	C
精神医療 センター	健全で効率的な運営	B
経営管理課	経営健全化対策の推進	C

【基本方針】持続可能な経営基盤を確立する

令和7年度の 取組および 評価と課題、 今後の対応	◎令和7年度の取組および評価					
	(1)各県立病院の取組状況					
	・総合病院においては、全身麻酔手術件数の増加等により令和7年度の診療収益を増加させることができた。また、診療実績の拡大による急性期充実体制加算の実績基準の充足や、診療密度の向上等によるDPC特定病院群(旧Ⅱ群)への移行等により、令和8年度の診療報酬改定後の診療単価の向上を図ることができた。令和7年度においては医業収益が昨年度より3.3億円向上し過去最高額を更新したが、医業費用も9.5億円増加した。 ・精神医療センターにおいては、地域の医療機関との調整等の地域へ戻す取組等、効率的な病棟運営に取り組んだが、アルコール依存症等の入院患者の減少等もあり、延べ入院患者数が2,008人減少し、医業収益も0.5億円減少した。					
	(2)全体の評価 ・延べ入院患者数は昨年度と比較して両病院とも減少しているものの、総合病院における単価の向上や外来患者数の増等の影響により、県立病院全体の医業収益は218億円と、昨年度より2.7億円増加して3年連続で過去最高額を更新している。 ・一方で、賃金や物価の上昇もあり医業費用は昨年度と比較して10.5億円増加しており、この影響もあり令和7年度は病院全体で23億円の赤字を経常することとなった。 ・経常収支比率や修正医業収支比率も悪化しているほか、欠損金の増加により自己資本構成比率も昨年度と比較して5.3ポイント減少していることから、令和7年度に対する評価をC評価とする。					
	◎課題、今後の対応					
	・両病院において病床稼働率が令和6年度と比較して低下している。両病院ともに平均在院日数が短縮されていることも影響し、新入院患者数がこども棟も含めた総合病院では増加しているものの、病床稼働率は目標まで達せず医業収益の上昇が伸び悩んだ。地域の医療機関との紹介・逆紹介等の連携や、救急への対応の徹底を通じて患者の獲得に努める。					
	・職員の給与や委託先の職員の賃金が継続して上昇しており、診療材料や燃料費等を含む物価については世界的な情勢の影響もあり今後も継続して上昇が見込まれる等、外部要因に起因する医業費用の更なる増加が見込まれる。材料費の価格交渉や共同調達、その他契約の見直し等により費用を可能な限り縮減できるよう努める。					
	・資金残高が減少しており、患者の確保や単価の向上等を通じた経営改善により経常収支の改善を図るとともに、病院事業債(経営改善推進事業)により運転資金の確保に努める。					

基本方針		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
持続可能な経営基盤を確立する	評価	B	C	C		

全体評価

基本方針	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高度で安全な医療を提供する	A	A	A		
患者に寄り添う心と、仕事への誇りを持ち続ける	A	A	A		
持続可能な経営基盤を確立する	B	C	C		

高度で安全な医療を提供する

